

「労働・経営環境の改善」アンケート結果について

協会事務局

日本標準産業分類に「ペストコントロール業」が正式に認定され、業界の社会的立ち位置が明確になってきました。

協会としてこの基盤を充実させ、市民や行政に対してより信用・信頼の拡充を図る活動を推進しており、「顧客満足度の向上」「ペストコントロールの専門性の追求」及び「市民、行政に対する協会の信用・信頼の向上」を目指し、総務委員会、企画広報委員会、技術教育委員会及びインターネット委員会の4委員会において、施策・研修会・講演会等の企画立案、実施に向けた検討を行っています。

企画広報委員会では協会会員の「労働・経営環境の改善」に向けて、皆さんが抱える課題や問題を抽出・把握することを目的として、令和5年3月にアンケートを実施しましたので、その結果などについて、報告します。

1. アンケートの内容

下記の2点について、会員を対象に無記名で行いました。

①今あなたの会社で一番問題や課題になっていることを、下の選択肢より複数選んでください

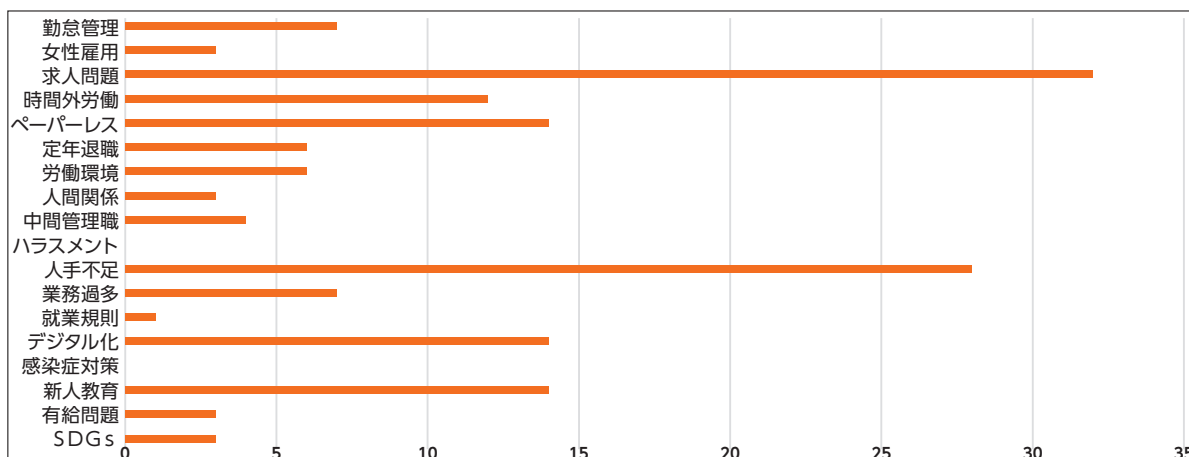
(□内にレ点でご記入願います。)

- | | | | | |
|---------------------------------|-------------------------------|-------------------------------|--------------------------------|---------------------------------|
| <input type="checkbox"/> 勤怠管理 | <input type="checkbox"/> 女性雇用 | <input type="checkbox"/> 求人問題 | <input type="checkbox"/> 時間外労働 | <input type="checkbox"/> ペーパーレス |
| <input type="checkbox"/> 定年退職 | <input type="checkbox"/> 労働環境 | <input type="checkbox"/> 人間関係 | <input type="checkbox"/> 中間管理職 | <input type="checkbox"/> ハラスメント |
| <input type="checkbox"/> 人手不足 | <input type="checkbox"/> 業務過多 | <input type="checkbox"/> 就業規則 | <input type="checkbox"/> デジタル化 | <input type="checkbox"/> 感染症対策 |
| <input type="checkbox"/> 新人教育 | <input type="checkbox"/> 有給問題 | <input type="checkbox"/> SDGs | | |
| <input type="checkbox"/> その他() | | | | |

②自分の会社、もしくはペストコントロール協会の5年後、10年後はどんな会社、どんな協会になっていると思われますか（自由記入欄ですが、ここではネガティブな意見ではなく、できるだけポジティブなご回答をお願いします）

2. アンケートの結果(49社/79社 回答率62.03%)

(1)会社での課題や問題(選択肢の中から複数回答)



その他の課題や問題：

- ①コロナ後の景気、値上げラッシュの中でのベースアップ、取引先への値上げ交渉
- ②これからのPCO市場
- ③M&A
- ④インボイス制度、電子帳簿保存法

(2)自由意見

『1. アンケートの内容 ②』の自由意見を分類したところ、次のとおりでした。

〔高齢者雇用〕に関する自由意見)

- 高齢者の雇用を通じて感染症対策や人手不足等諸々の社会問題へのアプローチを尚一層進めていける企業になりたいし、なっていたい。
- 弊社においては、ほとんどの社員が60代になる高齢会社になっています。ポジティブに書けば現役並の給与が取れているのではないのでしょうか！？

〔外国人人材〕に関する自由意見)

- 弊社は、海外に営業所又は出張所を開設していると思います。少子高齢化による人口減少や税金などの増税、同業他社との競争激化により益々厳しい経営を強いられるようになってくると考えています。それであれば海外企業とのタイアップにより、グローバルに販路拡大を模索するのも良いと考えています。
- 当社では人手不足のため外国人労働者の雇用が増えており、今後も増加していくと思われます。
- 次の世代の社員、社長はハーフ、クォーターの人が増え、PCOの業務も海外の事情をいち早くとり入れる事に重きを置くようになる気がします。
- 日本国内の外国人比率が増えていく場合、英語での対応も必要となり、協会内でもネイティブな人材が出てくるかもしれない。

〔女性雇用〕に関する自由意見)

- 自分の会社にしても業界全体としても女性の雇用が増えて欲しいと思います。そのためには、社内環境の整備は当然必要ですが、PCO業界全体のイメージUPや作業内容の見直し等が不可欠だと思われます。福祉住環境コーディネーターのような、例えば衛生住環境コーディネーターのようなネーミングの公的資格を作って、参画しやすいイメージを広める等。

〔人手不足〕に関する自由意見)

- 人手不足による業務縮小が余儀ない現実となりそうです。
- 会社としては、長年にわたり人手不足、求人問題などに頭を悩ませてきているが、新たな求人システムの導入や求人専門部門の確立などが始まり、効果を見せてきている。ゆくゆくは問題解決とまではいかなくとも、以前から比べて人材が集まりやすくなっていくはずと期待できる。

○無くなることのない業界だと思うので、働きやすい環境が今よりも発展していくといいなと思います。

(「後継者問題」に関する自由意見)

○衣食住のうち、住まいに携わる業種なので、仕事が途切れる事は少ないと考えております。ただ、現状会社全体の高齢化が進んでおり、後継者問題などで悩んでいる会員様も少なくないと思います。

(「デジタル化」や「AI導入」に関する自由意見)

- 業界業務の中で更にデジタル化が進み、業務の効率化が進む会社が先導して行くと思われま
す。ペストコントロールの仕事は無くならないが、相談内容は変わっていく(例えばシロアリ
は減り、ネズミは増える等)
- まだまだ課題は多いですが、出退勤等の電子化が推進されており、業務におけるデジタル化が
進んでいると思います。
- 色んな企業でAIがとりいれられ、ますます少人数化で対応する様に進んでいくと思われま
す。

(「地球温暖化」に関する自由意見)

- 気候の温暖化に伴い、害虫発生が更に進み、公衆衛生における対応が増える。高齢化社会の
為、一般家庭のネズミ案件は増えるが、空家問題も含めて、無策だと歯止めが効かない状態と
なる。
- 害虫駆除の市場規模、今後も増加傾向にあります。直近の10年間では特に温暖化が進んでお
り、生態系への影響や病原菌の拡大も懸念されるとともに、PCO業界の担う役割も大きくな
ります。単独の会社だけでなく、協会等で連携をとり、対応できる体制作りが進み、業界の認
知度も上がっていく事を望んでおります。
- 害虫駆除は温暖化が進むほどますます重要になると思います。

(「ペストコントロール業」が日本標準産業分類に位置づけられることに関する自由意見)

- 職業分類に掲載されることで、「ペストコントロール」の知名度が上がる。知名度が上がれば
仕事が増えることが期待されるが、反面、新規参入業者も増えると思われる。技術、経験不足
の業者も増えると、一般市民のイメージは悪化してしまう。そのためますます「ペストコント
ロール協会加入」の重要性が高くなる。
- 自然災害、家畜伝染病、感染症対策など今後も起こりうる事に対して我々ペストコントロール
業務は必須です。産業分類の中にペストコントロール業が加わり、今まで以上にこの業界の認
知度が飛躍している事を願っています。
- ペストコントロールという業務、言葉の認知度が向上していることを願います。弊社のペスト
コントロール業務担当者は現在2名ですが、将来は拡大し作業員も増員する計画です。

(「SDGs」に関する自由意見)

- SDGs等の国際的な守り事が増えていく気がします。

(その他)

- 業界も会社も10年後には、ガラッと一新される。効率よく虫を駆除、防除する資材が登場し、「予防」が9割を超える、つまり「害虫を見ない」世界になる。
- ①環境衛生に関する国民の意識が一段と高まり、ペストコントロール業界(協会)の専門技術を活かした質の高い環境衛生管理のニーズは高まる。つれて、特定建築物の範囲も拡大(建物面積縮小)する。②遠隔監視等のAI技術と技術者の専門技術が融合し、効率的かつ効果的な作業を顧客に提供することが一的化する。上記①、②を踏まえ、コンサルティング機能・役割が増してくる。
- 被害にあってからの相談ではなく、被害にあう前に相談できる窓口になっていくと思い日々対応しております。
- 市場規模も大きくなり、社会から必要とされる期待値も高まると思っています。ペストコントロール技術者やその企業もよりサービスや技術力も求められる為、それに一早く順応していきたいと思えます。
- 社会生活にも影響を及ぼす事に繋がった、新型コロナウイルス感染症のように、予測不可能な健康被害が発生しました。残念ながらPCOとしては、第一線で活躍したかと言うと疑問です。今後も社会生活を脅かす何かが発生すると思えます。直接的に人への被害を発生させるものに対し、解決する団体となっていると思えます。少しずつの積み上げが、社会に必要不可欠と認知される団体となっていると思えます。
- コンプライアンスを遵守し、労働環境のより一層の改善、既に実施している寄付などを通じて、自社の職員だけではなく社会全体に対しての責任を果たすことのできる会社になっていると考えます。協会との連携を深めることで、より自発的に社会に向けて明確なメッセージを伝えることのできる会社でありたいと考えています。
- インターネット、訪問販売等で溢れる悪徳販売業者に相対する、安心して任せられる業者であり、協会であって欲しい(なっている)。
- 生き残る為には、・自社における技術革新・労働環境の改善・優秀な人材の確保、これを推し進めていく必要があります。優秀なマーケティング人材を確保しランチェスター戦略を推し進めることが、中小零細PCO企業に与えられた大きな課題だと考えます。
- シロアリは減少↓ 害虫獣は増加↑ ペストコントロールは、会員の技術、知識の差がどんどん開いて行き、低い会社は取り残されていく。ぶっちゃけネガティブな方向へ行く。
- 弊社においても虫の同定や捕獲数のオンライン管理など人手不足でも対応が可能な仕組みとなると思われますが、業態によって(特にサービス業)は顧客とのコミュニケーション能力が大きな鍵を握っていると思えます。5年後に何処まで変わっているのか楽しみです。
- お客様、お取引先、株主、社会、従業員とその家族等々、当社や協会に関わる全ての方々が『当社と繋がって良かった!』『協会と繋がって良かった!』と言ってもらえる、お互いが大切に思い、支え合い、感謝の気持ちを持ち、人を大切にし、共に成長することを実現している。
- 弊社の目指す方向として、防災事業を軸とし環境における防災を事業の1つとして確立していきたいと考えています。広義では環境における防災として、自然災害等の災害を未然に防ぐ、狭義では害虫・害獣等に関する衛生面での対策、疾病対策等、広い視野で事業を展開しつつ、ニーズに合わせたサービスを提供していきたいと思えます。そのためにも社内の管理体制、人員強化といった面にも積極的に取り組み、社内外で信頼される会社を目指しそれが実現できる

会社になっていると思います。

(協会に関する自由意見)

- 協会に於いては、国や行政機関との関わりの多い政治色の強い組織になっているのではないのでしょうか!?
- 5年後・10年後にはペストコントロール業が世間にしっかりと認知されるようにしていくようにしたい。会員数の増加。今現在、一定の人の協会事業への参加が目立つので、協会会員の多くが参加するようにしていきたい。総会や虫の日・懇親会等のイベントにも参加して頂き神奈川県協会に誇りを持って頂けたら最高です。
- SDGsをより意識した協会となり、今まで以上に地域に根ざした活動、運営を行っていくと思います
- 薬剤の情報や新しい対処法など情報提供の場になってほしいです。
- 若手を教育できる体制や若者への優遇措置を、協会を通してサポートをできれば良いと思っております。
- 新しい世代の方々にペストコントロールを理解してもらう取り組みを行いつつ働きやすい環境のもと、十分な力を発揮して頂けるような環境整備、それに伴う技術の向上等いろいろな方面より社会に貢献できるような協会になって頂きたい。
- 世の中に「ペストコントロール」の言葉が普及され、人材募集でも「ペストコントロール従事者」で業務内容が理解される会社、協会になっていきたい。又、ペストコントロールの重要性、必要性が理解され、更なるマーケティングの拡大につながる事を期待しています。
- 1社々々が強い企業になりその集合体こそがPCO協会とならねばならないと考えます。技能師や技能者などの資格が更に広まって、PCO業界全体のスキル・知識アップにつながっていく。
- 協会の認知度が上がって、害虫等に困ったらペストコントロール協会に相談してくれるようになっていくと思います。

3 アンケート結果の還元

今回のアンケートをとおして、会員の皆さんの課題や問題を抽出・把握することができました。今後、多かった項目について、労働・経営環境の改善に関する研修会・講習会を開催するとともに、情報の提供を行ってまいります。

なお、令和6年2月に開催した第60回定時総会終了後に実施した経営環境改善講習会において、大阪ガスケミカル株式会社の村上育子氏から「私が感じた、防蟻業界での採用で気を付けること」についてご講演いただきました。